

第22回東日本事例研究オンライン研修会 発表概要シート

法人名	株式会社太平洋シルバーサービス	施設名	シルバーシティ武蔵境
発表タイトル	「新型コロナウイルス感染症クラスター発生における対応」 ～新型コロナウイルスと戦った55日間から学んだこと～		
研究の目的	当ホームにおける新型コロナウイルス感染症クラスター発生において、職員全員で対応し、学び得たことを、今後の感染防止対策に役立てるため。		
発表の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・感染者発生時の対応、およびその後の状況・問題点 ・感染対応から生まれた業務の工夫 ・収束に向けた活動の内容 		
研究方法	今回の感染は、3波に分かれて発生したため、第1波の中で大変だったことや工夫したこと、学んだことを研究材料として、迅速に第2波、第3波の対応に生かした。なお、感染発生から収束にいたるまで、しっかり記録に残したため、その記録を辿りながら感染対応期間の振り返りを行うことができた。		
成果・結果	<p>第1波では、第1号感染者より食事やサークルを通じ、他のご入居者様に伝播したと考えられる。直後のスクリーニング検査で陰性であっても、数日後に陽性が確認されるケースが散見された。特に抗原検査では、無症状の場合は陰性判定となる可能性が高いため、注意深くご入居者様や職員の体調管理を行うことが肝心である。</p> <p>また、看護や介護のために感染者に接する機会が多い職員は、マスクや手指消毒をしっかりと行っても感染を回避できなかった。</p> <p>なお、感染されたご入居者様への対応に追われ、館内の消毒作業を清掃スタッフに任せきりにしてしまったことは反省すべき点といえる。</p>		
考察	<p>第1波では、居室対応のための配膳業務や食事介助、清潔保持、排泄介助等に追われる中、日勤ヘルパー、夜勤ヘルパー、看護職員の感染によりマンパワー減となり、日々の業務に追われたが、以下のような業務効率化が生まれた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①使い捨て食器の利用により、感染拡大の回避と下膳時間を短縮。 ②各階の空室を利用して汚物保管場所を設置することにより、職員の導線を短縮。 ③一時的に清拭を中止し、感染拡大の回避と他業務への時間転化を実現。 ④朝礼・夕礼で情報共有を行い、職員の意識を統一。 <p>第1波での学びや業務効率化の成果もあり、第2波、第3波においては比較的冷静に対応できた。また、以下の対応を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①感染されたご入居者様への対応は、主に第1波で感染した職員が行うことで感染拡大を回避した。 ②感染者が特定のフロアに限定されたため、他フロアのご入居者様は通常の生活を送っていた。 ③家族の面会や新規ご入居者の受け入れを可能とした。 ④職員による夜間の消毒作業の励行により、意識改革を実現した。 		
アピールポイント 伝えたいこと	このたびのクラスター発生により、長期間に亘りご入居者様やご家族様、職員にも大きな不安と心配をかけてしまった。 しかし、日を重ねるごとに職員の意識に変化が生まれ、自主的に消毒作業を行う職員が増え、全員でホームを守るという団結力が生まれたことは最大の収穫である。今後も職員の意識向上を図り、感染防止対策を徹底していきたい。		